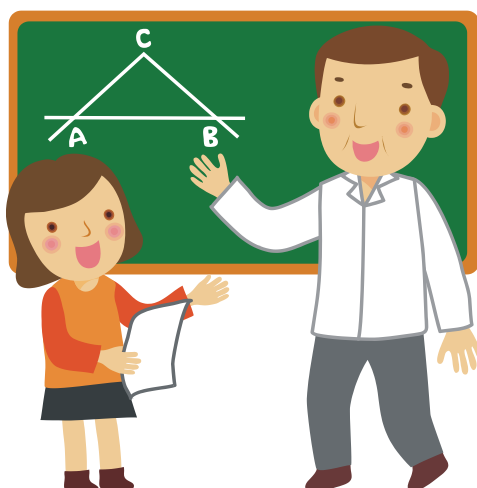


平成28年度
学校評価アンケート結果



高知県立須崎工業高等学校
平成28年12月実施

はじめに

学校評価は、学校の自主性・自律性を図る目標を掲げ、生徒、保護者や地域の信頼にこたえ、学校・家庭・地域と連携協力し、実情にあった「特色ある学校づくり」や「開かれた学校づくり」を目指し、その結果を総合的に分析し、今後の学校運営に反映させていく方策を探る資料とするものです。

本校での評価方法は、内部評価（生徒・教職員）と関係者（保護者・開かれた学校づくり推進委員）評価とし、評価の実施にあたっては、学校評価検討委員会を組織し「学校評価アンケート」の原案を作成・検討した後、実施しています。

実施方法については、生徒はロングホームを活用、保護者はお子様便、教職員には期限を設けて、地域（開かれた学校づくり推進委員）には郵送便により実施いたしました。

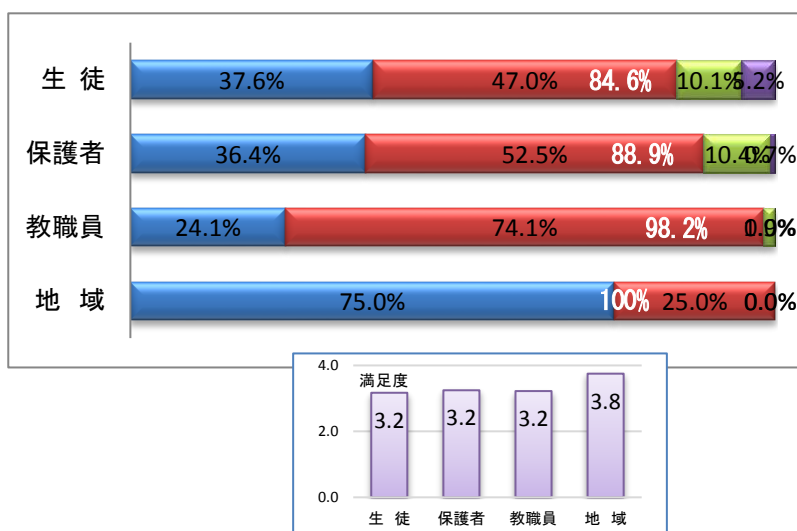
回収率は、生徒及び教職員は100%、保護者97.9%、開かれた学校づくり推進委員85.7%となっております。

学校評価アンケートの結果及び考察

() 内の%値は平成26年度を表示

■①そう思う ■②ややそう思う ■③あまりそう思わない ■④そう思わない

1 学校生活が楽しく充実していますか。

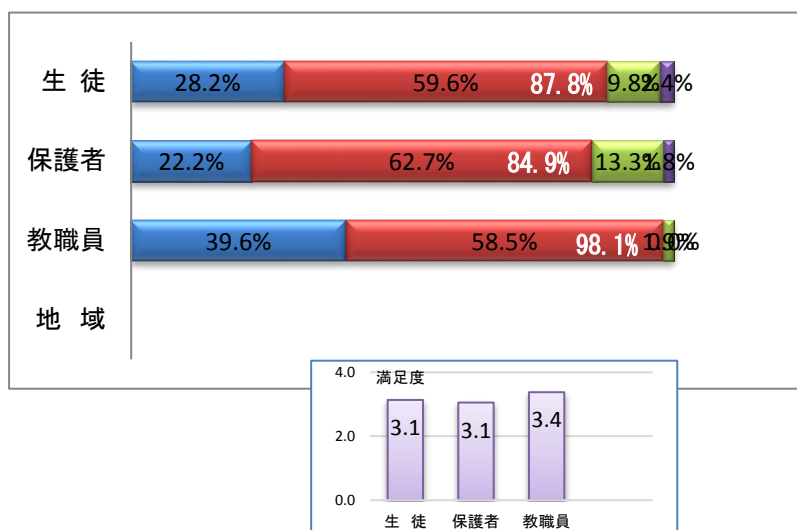


「あなたは学校生活が楽しく、満足していますか」の問いに、肯定的に回答した生徒は84.6%と、昨年より微増しています。また、「子どもたちは、学校生活に満足していると思いますか」の問いに肯定的な保護者は88.9%、教職員は98.2%となっております。地域では100%が「感じている」というものでした。

学習、資格取得、部活動、学校行事など学校生活の総合的な評価であり、生徒の満足度を3.5以上または肯定的な回答90%以上を目標とした取り組みに努める必要性を感じています。

(生徒82.7%、保護者92.0%、教職員96.2%、地域100%)

2 授業がよくわかる、先生がわかりやすい授業に努めていますか。

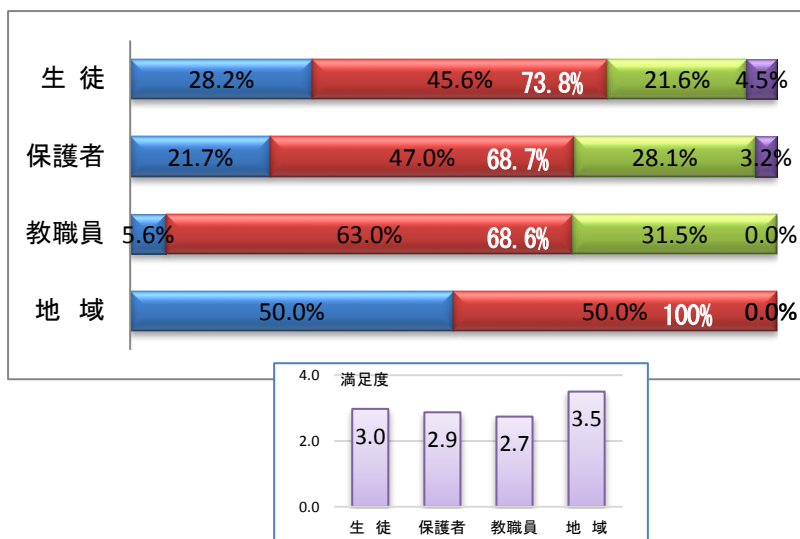


生徒、保護者、教職員ともに80%を超える肯定的な回答を得ました。「生徒にとってわかりやすい授業」は一定評価されている結果ととらえることができます。

「わかりやすく教える」と「簡単な授業」をすることでは少し意味合いが違い、この立場の違いによる温度差があると考えられます。さじ加減は難しいところではありますが、今後においても、教員は日々授業改善に努めていく必要性があると考えられます。

(生徒87.2%、保護者87.1%、教職員98.0%)

3 目標を持って学校生活を送っていますか。



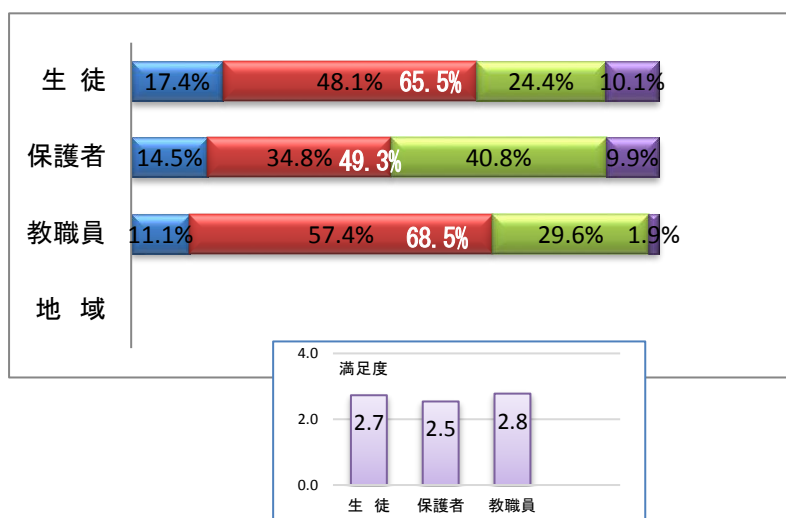
「学校生活が楽しく充実している」の肯定的な回答の割に「目標を持って高校生活を送れている」の肯定的な回答が少なく残念な結果となっています。

入学後、早い段階で目標を持つ意義を考えさせる機会を増やし、目標を持たせる工夫に努めていきたいと考えています。

地域では、「教職員が意欲を持って教育活動にあたっていると思いますか」という問いに、100%の肯定的な回答を得たことは、今後の教育活動に取り組む励みとなっています。

(生徒 72.6%、保護者 74.1%、教職員 66.0%、地域 100%)

4 悩みや困ったことについて先生に相談していますか。

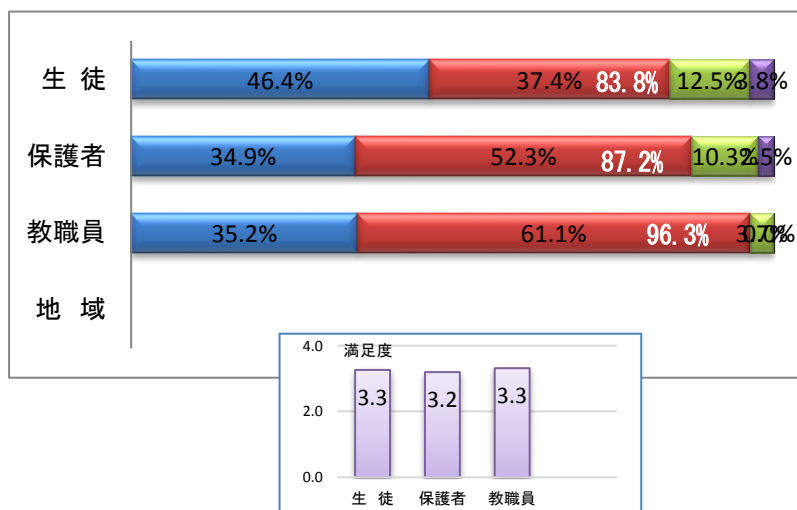


肯定的な回答が、生徒、教職員ともに 65%を超えてきた。取り組みが浸透しつつあることがうかがえます。

科別、学年別、ホーム別の指導やアセスの実施、スクールカウンセラーの配置で、問題の早期発見・早期対応に取り組んでいますが、なお一層生徒が気軽に相談できる雰囲気づくりを推し進め、伸び悩み状態とならないようにしていく必要がありますと考えています。

(生徒 60.6%、保護者 55.2%、教職員 65.4%)

5 自分のクラスが楽しいですか。

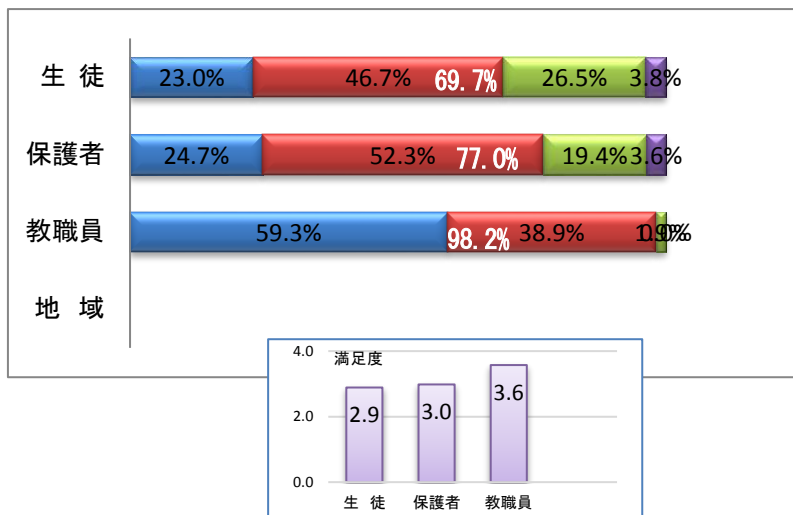


クラスメートとの学校生活において、自分の存在感や充実感を感じることができる人間関係や環境がおおむね整っていると推察することができる肯定的な回答がいただけた。

集団生活を営む上での道徳教育や人権教育と関連させながら自己の存在感や充実感を感じ取ることができるような雰囲気づくりをさらに推し進めていく必要があると考えています。

(生徒 87.9%、保護者 88.0%、教職員 88.5%)

6 学校からの連絡や情報を積極的に家庭に伝えていますか。

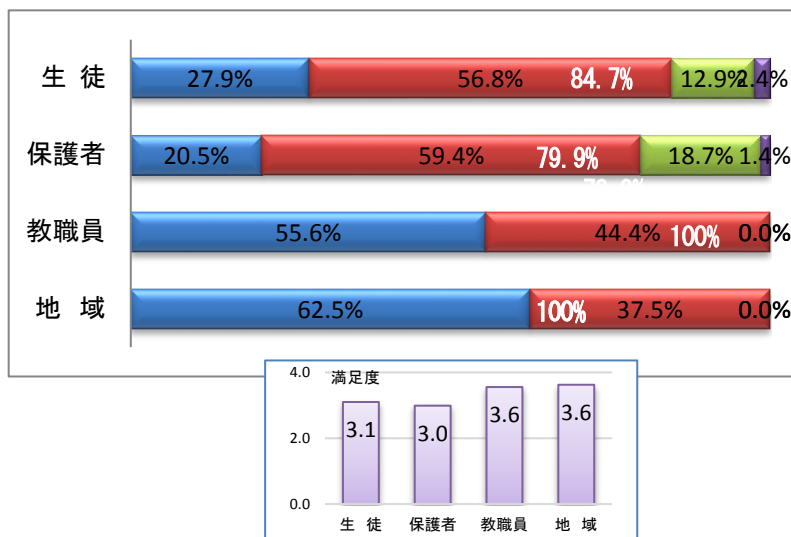


生徒、保護者の肯定する回答が減少していることが気になる。教職員は積極的に情報を伝えるよとしていますが、学校からの連絡や情報が家庭にうまく伝わっていない現状もあります。

生徒向けの情報と保護者向けの情報をうまく使い分けした表現の工夫、家庭で話をしなければならいことなどを明確化する工夫に取り組む必要性があると考えています。また、情報の一方通行に注意しながら取り組んでいかなければならない。

(生徒 74.3%、保護者 78.8%、教職員 96.1%)

7 先生は意見を聞いてくれますか。意欲を持って教育活動にあたっていますか。

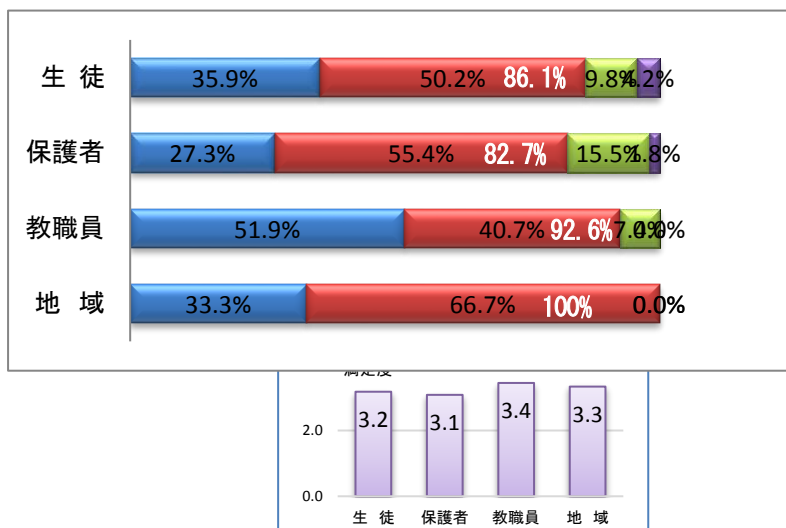


生徒、保護者の肯定的な回答が減少してきたことは気になります。保護者と教職員の回答結果に大きな開きがあるので、今後、縮めていく必要があります。

わかる授業づくりや科別、学年別、ホーム別の指導、アセスの実施、スクールカウンセラーの配置で問題の早期発見・早期対処への取り組み、自己の存在感や充実感を感じ取ることができるような雰囲気づくりなど、なお一層推し進めていく必要性があると考えています。

(生徒 85.2%、保護者 81.2%、教職員 92.3%、地域 100%)

8 ホーム主任複数制は、きめ細かな指導ができていますか。

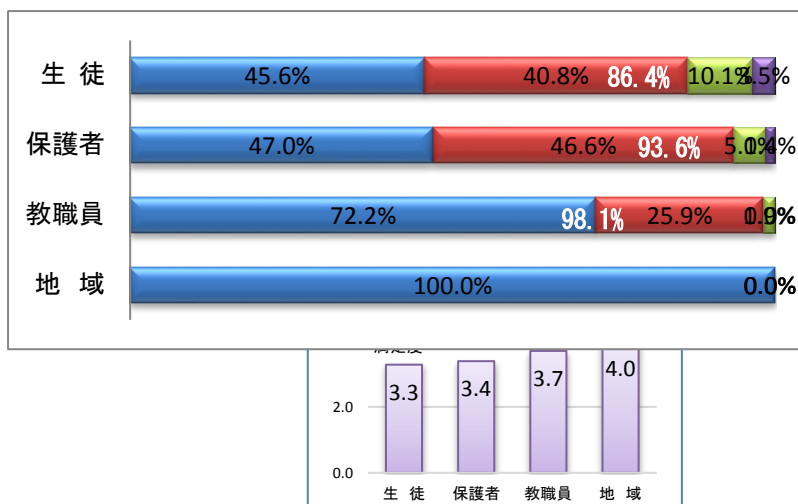


生徒、保護者、地域、教職員ともに肯定的な回答が定着してきました。この制度は、本校独自に平成16年度から実施しているもので、県下的に取り入れる学校が増えています。

主任一人制より確実に教育効果は表れていると考えられます。今後も、一人の生徒を多くの教職員で支えていけるように取り組んでいかなければならないと考えています。

(生徒 85.5%、保護者 88.7%、教職員 88.5%、地域 100%)

9 学校行事は楽しく充実していますか。

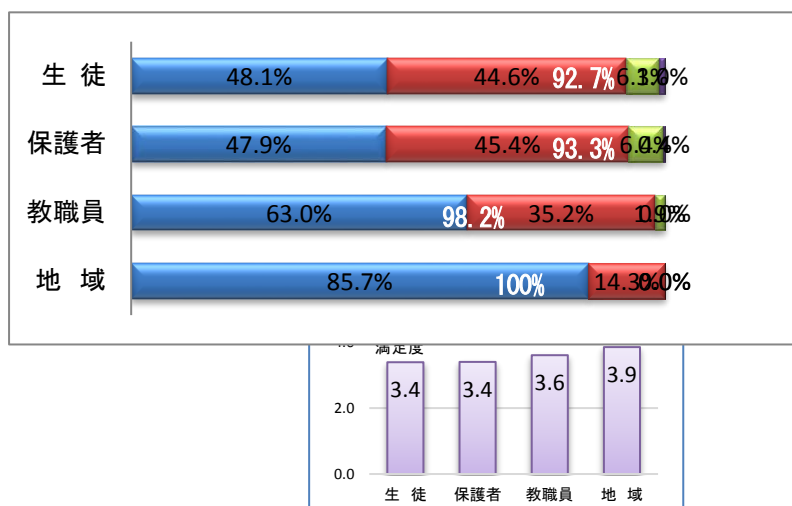


遠足、校内ドラゴンカヌー大会、体育祭（文化祭）、マラソン大会、課題研究発表会、防災訓練などの学校行事が楽しく充実していると肯定的な回答が定着しました。

生徒会を中心に生徒自ら運営ができるような仕組みづくりなど、生徒の充実感や満足感を引き出す工夫により、生徒との温度差が改善されるのではないかと考えられます。

(生徒 86.6%、保護者 94.0%、教職員 98.0%、地域 100%)

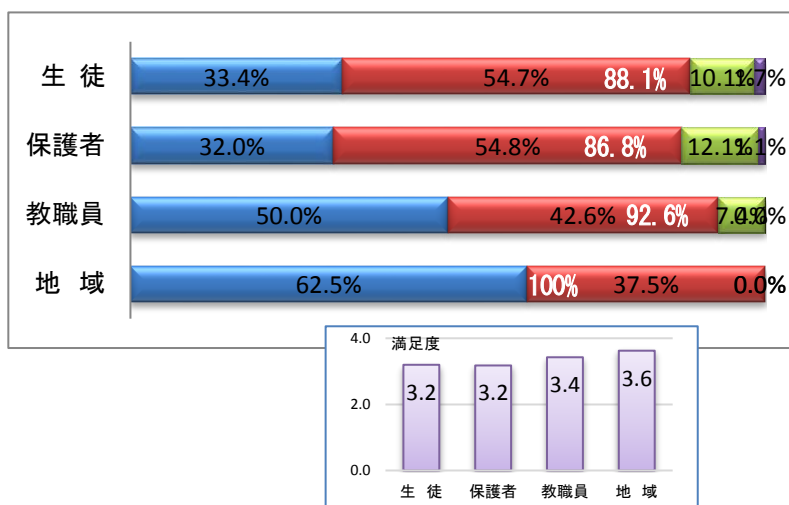
10 学校は「一人一資格」推進に積極的に取り組んでいますか。



基礎学力定着、自ら学ぶ習慣づくり、進路保障へと繋げることができるよう「一人一資格」推進に取り組んできました。「一人一資格」取得は定着してきているが、少数ではあるが取得しない卒業していく生徒への支援が必要であると考えています。また、基礎学力定着や自ら学ぶ習慣づくりに生かされるように、今一度検証し工夫すること必要であると考えられます。

(生徒 91.3%、保護者 94.7%、教職員 98.1%、地域 100%)

11 学校は教育重点目標達成に向けて努力をしていますか。

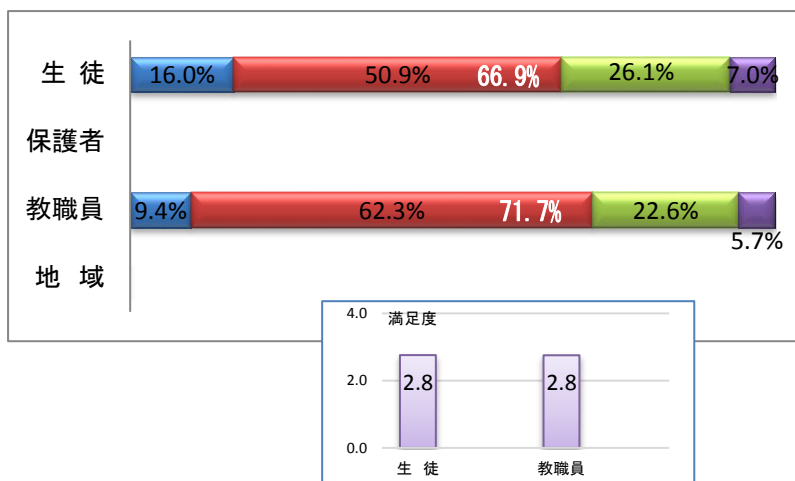


肯定的な意見が 85%以上、満足度が向上してきたことは非常に喜ばしいことです。この満足度に甘えることなく、努力を続ける必要があると思われます。

「学校生活が楽しく充実している」と同じく、学習、資格取得、部活動、学校行事、進路保障の充実などの総合的な評価であり、生徒・保護者の満足度を 3.5 以上または肯定的な回答 90%以上を目標とした取り組みに努める必要があると考えています。

(生徒 88.2%、保護者 90.8%、教職員 94.2%、地域 100%)

12 Can-Do リストを意識した学校生活が送れていますか。

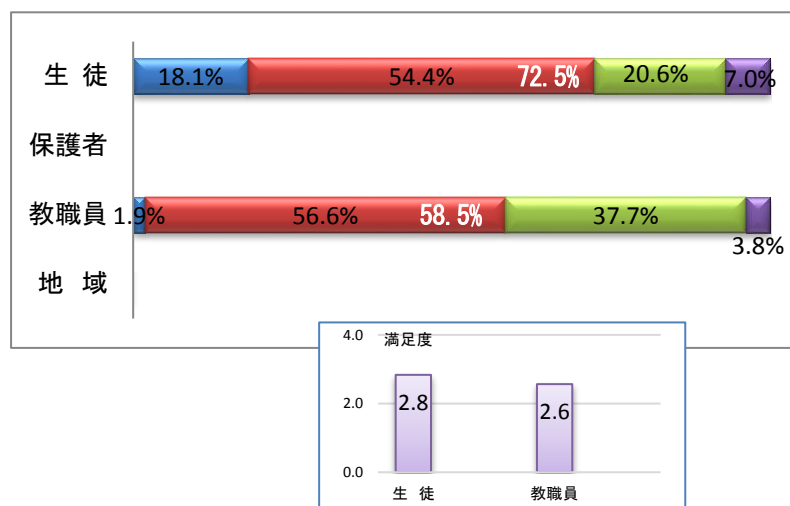


昨年度より意識している生徒が微増し、「挨拶」「服装」「マナー」等、少しずつ定着しています。

学校経営計画に基づき「生徒につけさせたい力」を具体的に示し、自己評価と他者評価により目標を持たせ成長を促す取り組みです。LHやSH、学校生活全体を通し、早い段階で肯定的な回答が80%になるように浸透させるよう努めなければならぬと考えています。

(生徒64.6%、教職員70.6%)

13 Can-Do リストの活用で成長を感じていますか。



生徒の70%以上が成長を感じていることは自己肯定感に繋がります。「生徒につけさせたい力」を具体的に示すことで、生徒自身が日々の取り組みの成果として自分自身の成長を感じていることは非常にうれしいことであり、教育効果を計る上では重要となってくる。日々の取り組みにおいて浸透させていくよう努めなければならぬと考えています。

(生徒66.0%、教職員55.8%)

14 これから特に学校に力を入れてほしいことは何ですか。

	1 位	2 位	3 位
生徒	わかりやすい授業	進学・就職希望にこたえる教育	学校行事や部活動の充実
保護者	進学・就職希望にこたえる教育	わかりやすい授業	社会のルールや決まりの指導
教職員	社会のルールや決まりの指導	進学・就職希望にこたえる教育	わかりやすい授業
地域	進学・就職希望にこたえる教育	わかりやすい授業	社会のルールや決まりの指導

「進学・就職希望にこたえる教育」がいずれも上位にあり、進路保障100%達成を目標に取り組んでいますが、目標達成と維持が最も重要で大きな目標であることを再認識しました。（進路保障）

「社会のルールや決まりの指導」が保護者、教職員、地域で上位にあり、生徒は4番目に位置しております。生徒自身はルールや決まりの大切さを理解しています。学校だけではなく、家庭、地域との連携をさらに進化させ、生徒を社会、地域ぐるみで見守っていく必要があります。（基本的生活習慣）

「わかりやすい授業」も上位に位置し、授業研究や授業の質をさらに向上させることが必要であることを感じています。（学力向上）

おわりに

学校関係者評価の重要な目的としては、

- 1 「評価活動を通じたコミュニケーションによる保護者や地域住民と学校がお互いに理解を深めること」
- 2 「学校の自己評価の客観性・透明性を高めること」
- 3 「保護者や地域住民などが、より良い学校づくりのプロセスに参加するための仕組み」

の3つになります。

本年度実施した学校評価アンケートで、生徒、保護者、地域、教職員の意見集約ができました。この結果を受け、目的を果たすために、次年度以降の学校教育活動に生かし、中・長期ビジョンとして検討していかなければなりません。また、学校関係機関等との連携・協力の推進も必要であることは言うまでもありません。

生徒、保護者、地域の皆様から頂いた自由記述のお言葉にも耳を傾け、今後の学校づくりに生かしていけるよう努めてまいります。

これからも、生徒、保護者、地域並びに教職員にとって、「特色ある学校づくり」・「開かれた学校づくり」を推進し、活力に満ちた学校づくりに頑張ってまいりますので、ご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。